向町、緑町、佐間の水害対策と行田市駅エレベーター設置

高橋弘行（改革・創生の会）

●向町、緑町、佐間の水害対策に地下調節池を

問 向町、緑町、佐間の水害に直近の対策として、地下の調節池、地下に箱を造る整備があるが、その対策を市が行う考えはあるか。

答 水害対策における地下調節池整備事業について、今回、72万トンの水が出たが、それを溜めるだけの池ができるかというと疑問である。1トンあたり約1億円という試算があるが、72億円をかける財政余力はないので、しばらくの間は調節池まではできないと考えている。

●秩父線行田市駅エレベーター設置について

問 市民が市長に要望して30年、エレベーターはどのように市にお願いすれば設置できるのか。

答 跨線橋が古くなっており、屋根もおかしくなっているため、大至急直さなければならないと思っている。さらに、エレベーターについては、試算では1基7千万円、3基では2億1千万円となる。現時点では、秩父鉄道が費用を出さないので難しい。本当に設置した場合のメリットがあるのか、ないのか。また、1日にどれくらいの人が使うのか、そういったところをきちんと計算しない限り、この事業をただ単純に進めるわけにはいかない。議員に決めてもらうことも方法の一つとしていいと思うが、市で行う場合においては、市民全体としてメリットがあるかどうかの検証まで行い、少なくてもその辺の考え方をもとにしたことを説明することによって行いたいと思う。それができない限りはできない。

ごみ処理（鴻巣行田北本環境資源組合、新施設建設）

江川直一（公明党）

小針クリーンセンターの老朽化が進み、新施設建設の計画を進めてから5年以上が経過している。事業者へのアンケート調査の結果、概算事業費が示された。費用面から、小針と比較してほしいとの提案もあるが、3市の基本合意の際、北本市は、行田市ではなく、中間の鴻巣市に建設することで議決、合意している。負担を極力少なくするため、3市の広域の枠組みが大事であり、壊れることが非常に心配である。

問 本市は、基本合意について、どのようなものと考えているのか。

答 当事者間で話し合った結果、合意した重要な約束事項をまとめた文書であると認識している。

問 鴻巣行田北本環境資源組合の存続、解散についての見解は。

答 ごみ処理を広域で行うことで市民負担を抑えることができる。組合の解散は想定していない。

問 存続のための合意についての見解は。

答 3市の組合を維持しながら、合意できる方法を模索している。

問 市長の考えは。

答 行田市民にとって最も負担の少ないごみ処理行政を行いたいと考えており、安養寺の土地は高すぎる。一度立ち止まり細部まで検討するべき。

問 小針に建設と言い続けた場合、北本市はついてくるのか。3市の枠組みが存続できるのか懸念される。市長が出した疑義の集約について、どのように考えているのか。

答 小針でなくてもよいが、安い場所を探してほしい。このまま高い事業費で進められては困る。あくまでも3市の枠組みは大事にしていく。

台風19号に伴う対応等について

梁瀬里司（黎明21）

問 避難所運営における課題はどうであったか。

答 避難所を速やかに開設し、避難者の対応を行ったが、災害対策本部との情報連絡が不十分だったため、ペット対応や備蓄品配布において統一した対応が取れなかった点が課題であった。

問 避難所は職員5名では人数が足りないのでは。

答 今回の件を踏まえ、増減を考えていきたい。

問 避難者で、ボランティアとして協力してもらえる方がいる場合は、協力を得ることも必要では。

答 申し出もあったが、今後、協力してもらえる業務内容を検証したい。

問 従事する職員は何か表示をしていたか。

答 その点も反省点であり、一目で分かるような腕章や名札、ビブス等の着用を検討したい。

問 災害情報等をFMクマガヤで聴けるということが市民に浸透していない。市民への周知が大事と考えるが。

答 様々な場面で周知していけるよう努めていく。

問 今回、忍川の治水対策を県へ要望したとのことだが、荒川、利根川の治水対策の要望もお願いしたいがどうか。

答 大規模河川については、他自治体と連携を図りながら要望していく。

問 出水対策（緑町、向町、佐間、前谷地区）をいつまでに行うか。

答 関係機関と連携し、一刻も早く解消するよう全力で取り組む。

問 今回、防災無線が聞き取りにくいとの声があったが、荒川に近い清水町については、もう一基増設する考えはあるか。

答 現時点で増設の考えはないが、新たな情報伝達手段を考えていく。